このレポート「Next」の名前は
子どもまちづくりクラブメンバーが案を出し
て投票し、メンバーと相談して決めました。



子どもの参加でより良いまちに！

Soft

Speaking Out From Tohoku

SOFT 中間報告書⑤　2015 年度版

Next



Speaking Out From Tohoku

～子どもの参加でより良いまちに！～

by 子どもまちづくりクラブ

Save the Children JAPAN

■■セーブ・ザ・チルドレンとは ■■

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界を目指し、世界約120か国で活動する国際子ども支援団体（NGO）です。教育や栄養改善、保健衛生などの支援活動のほかに、災害が発生した場合の緊急支援活動も行っています。

日本では2003年から、“Speaking Out～みんなで話そう～”という活動を行ってきました。これは、「子どものことは、子どもが一番よく知っている」ということから、子どもたちの意見を法律や計画などのさまざまな決め事に取り入れられるようにする活動です。2010年には日本の子どもの貧困を解決するための“Speaking Out Against Poverty ～夢や希望をうばわれないために～”という活動を、国・県・市町村と協力して行いました。

2011年3月11日の東日本大震災が起きてすぐから、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、岩手県・宮城県・福島県で、緊急・復興支援活動を始め、現在でも子どもたちや家族が普段の生活を取り戻せるようにする活動を続けています。さらに、復興に向けたより良いまちづくりを目指すため、“Speaking Out From Tohoku（SOFT）～子どもの参加でより良いまちに！～”という活動を展開しています。



■■SOFTとは ■■

「SOFT」とは、Speaking Out From Tohoku（スピーキング・アウト・フロム・トウホク）の略で、「東北から声をあげよう！！」という意味です。地域の一員である子どもたち自身が、復興に向けて声をあげ、参加することで、より良いまちづくりを目指していこうとする活動です。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが、震災前から行ってきた“Speaking Out”の経験を活かし、2011年5月に開始しました。

東日本大震災からの復興に向けた国・県・市町村の計画や取り組みの中に、地域の一員である子どもたちが声をあげ、参加できるように、「子どもまちづくりクラブ」や「Hear Our Voice～子どもたちの声～」、「東北子どもまちづくりサミット」などを行っています。

■■子どもまちづくりクラブとは ■■

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが2011年5月～6月にかけて、岩手県・宮城県の子どもたちに行った調査の結果、たくさんの子どもたちが「子ども同士で話し合ってまちのために何かしたい」と考えていることが分かりました。

そこで、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、この子どもたちの声を受けて、「子どもまちづくりクラブ」という活動を始めました。岩手県山田町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市の3つの地域で、小学5年生～高校生の子どもたちが定期的に集まって、子ども同士だけでなく地域の方や行政、専門家とも話し合いながら、地域の復興に向け、さまざまな活動をしています。

＊「地域の紹介」の子どもの人口は、0才以上18才未満です。

●岩手県山田町

クラブ名：けっぱれ山田Toekomst（トゥーコムスト）（通称・KYT）

コンセプト：愛があふれる町 ～未来・伝統～

クラブ名の由来：チーム名の「けっぱれ」は方言で「がんばれ」、「Toekomst」は山田町と交流があるオランダの言葉で「未来」という意味です。「未来に向かってがんばれ山田」という思いが込められています。

地域の紹介：人口16,455人（子ども2,149人）＊2015年11月現在
カキ・ホタテの養殖が有名で、まつたけやしいたけもたくさん採れるまちです。「山田祭り」も有名です。
姉妹都市があるオランダとの交流が深く、山田町には“愛”があふれていると感じます。

くわしい活動は p8,9 へ

●岩手県陸前高田市

クラブ名：絆 ～save the hope TAKATA～（通称・絆クラブ）

コンセプト：生きるだけの町ではなく豊かに暮らせる町

クラブ名の由来：陸前高田市は、人と人とのつながりが強いまちです。人と人との関係を大切にして、地域に住む人たちの絆をより深めていくきっかけになる活動にしたい、という思いが込められています。

地域の紹介：人口20,200人（子ども2,557人）＊2015年10月現在
「けんかセタ」、「うごくセタ」がある七夕祭りが有名なまちです。
かざりつけやお囃子（はやし）がたいへんだけど、すごくにぎわって楽しいです。
海のさちも山のさちもとてもおいしく、栄養があります。

くわしい活動はp10,11へ



●宮城県石巻市

クラブ名：THE ローリング・ストーンズ ～俺等はそれをROCKと呼ぶんだぜ～

コンセプト：大人も子どもも過ごしやすい、古いものも新しいものも一緒に Rock'n Rollのまち

クラブ名の由来：「石巻」＝ストーン＋ローリング＝ローリングストーンズにもなる！“音楽”はたくさんの人の笑顔を増やし、元気にすることができるので、全力ROCKで活動に取り組みたい、という思いが込められています。

地域の紹介：人口148,922人（子ども21,552人）＊2015年10月現在
海・山・川、三拍子そろった豊かな自然に囲まれていて、人と人とのつながりが深いまちです。
石＝ロック、巻＝ロールで、“ロックンロール”なまちでもあります。

くわしい活動はp12,13へ

■■Hear Our Voice ～子どもたちの声～とは ■■

アンケートや聞き取り調査などを通じて、地域の復興計画やまちづくり、防災（災害リスク軽減）に対する子どもたちの思いや意見を集め、社会に発信しています。同時に、国・県・市町村の復興計画やまちづくり、防災計画に子どもたちの声が取り入れられるように、子どもたち自身が国際社会・国・自治体などに対する政策提言を行っています。

くわしい活動はp18～20へ

■■ Speaking Out From Tohoku これまでの活動 ■■

2011年5月からはじまったSOFT。
2011年~2014年の「子どもまちづくりクラブ」と「Hear Our Voice」の活動のハイライトをお届けします！



2011　2012　2013　2014

山田町子どもまちづくりクラブ

7月

活動スタート！
“夢のまちプラン”作成

8月

報告会で
“夢のまちプラン”発表

11月

“夢のまちプラン”模型完成

4月

未来・伝統びょうぶ完成

8月

町内で復興について
聞き取りスタート！

11月

町長にもインタビュー

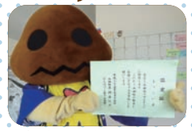
1月
ドリームコンパクト
シティプラン（DCCP）
作成スタート！

4月

町長にDCCPを提案♪

8月 9月

「まつしい」が
地域のイベントに参加


「まつしい」が
山田町公認キャラクターに♪

10月
「山田町カルタ」
企画・制作
スタート

6月

「山田町カルタ」完成！

9月
（仮称）山田町子ども交流センター
企画・デザインスタート

陸前高田市子どもまちづくりクラブ

6月

活動スタート！
“夢のまちプラン”作成

9月

報告会で
“夢のまちプラン”発表

11月

“夢のまちプラン”模型完成

1月
ミニ「あかりの木」
制作スタート

3月

仮設商店街の方と意見交換

8月
地域の子どもや
おとなと一緒に
ペイント

9月

ミニ「あかりの木」完成♪

4月

「進め！高田っ子！まちづくりトーク★」
で市長・副市長・市議会議長
と意見交換

11月

「進め！高田っ子！まちづくりフォト★」
で写真撮影♪

12月
撮影した写真と思いを
発信！

3月

「進め！高田っ子！まちづくりトーク★第2弾」
で市長・副市長・教育長と
意見交換

7月
再建予定の図書館に
子どもの声を反映するために
活動スタート

9月

報告会で市長や市内の
図書館関係者と意見交換

石巻市子どもまちづくりクラブ

7月

活動スタート！
“夢のまちプラン”作成

9月

報告会で
“夢のまちプラン”発表

11月


“夢のまちプラン”模型完成

1月
子どもセンター
企画・デザインスタート！

3月

模型を作成

10月

基本計画案を最終化

3月
子どもセンター
条例前文案を
作成！

6月

市長に条例前文案を
要望書として提出


子どもセンター起工式

12月

子どもセンター完成！

2月
商店街マップづくり
企画スタート

3月

商店街のお店へ取材開始

10月

商店街マップ完成！
配布スタート♪

Hear Our Voice　※子どもたち自身が政策提言した活動のみ掲載しています。

12月
3市町、2県に
意見書を提出











2月

復興庁に意見書を提出

7月

世界防災閣僚会議に参加

10月


第5回
アジア防災閣僚会議に参加

3月

第4回
防災グローバル
プラットフォーム会合
事前ワークショップ

5月

第4回
防災グローバルプラットフォーム会合
に参加

3月

第6回
アジア防災閣僚会議
事前ワークショップ

6月

第6回
アジア防災閣僚会議に参加

■■ Speaking Out From Tohoku これまでの活動 ■■



子どもまちづくりクラブ
2015 年の活動
スタート

2011年5月にSOFTがはじまってから、2015年11月で約4年半がたちました。
2011年、子どもまちづくりクラブが描いた“夢のまちプラン”。
その実現のため、さまざまな“Action”=行動をし、行政や地域、新しい仲間と“Connect”=つながりながら、“Future”=未来につながるまちづくりを目指してきた子どもたち。今年は“Next”=次の目標をもち、次のステージへという思いで活動してきました。震災から5年目を迎えた2015年のあゆみをどうぞご覧ください！





石巻市子どもまちづくりクラブ
自分たちで企画・デザインした
石巻市子どもセンターを拠点に
今年も活動スタート！



山田町子どもまちづくりクラブ
(仮称)山田町子ども交流センター
の完成に向けて今年も活動スタート！



陸前高田市子どもまちづくりクラブ
「進め！高田っ子！まちづくりフォト★第2弾」
企画スタート！



山田町子どもまちづくりクラブ
夢が現実のものへ！
(仮称)山田町子ども交流センター
ついに着工！



石巻市子どもまちづくりクラブ
石巻の復興状況を知るために、
復興現場視察ツアーを実施！



陸前高田市子どもまちづくりクラブ
子どもたちが復興に参加できるように
市長・教育長に提言書提出！

2014年 12月 6 20 21 / 2015年 1月 11 / 2月 17 18 19 / 3月 3 9 11 … / 4月 18 / 5月 5 こどもの日 / 6月 7 / 7月 28 / 8月 4 11 12 / 9月 2 5 / 10月 29 / 11月 27 / 世界子どもの日 20

子どもまちづくりクラブ報告会開催

石巻市子どもセンター「らいつ」開館1周年

子どもまちづくりクラブ報告会開催

子どもまちづくりリーダーツアー2015
事前ワークショップ in福島

子どもまちづくりリーダーツアー2015開催

Hear Our Voice
～世界の防災に向けて～
第3回国連防災世界会議
事前ワークショップ開催

石巻市子どもセンターが
「第10回こども環境学会賞活動賞」受賞

石巻市子どもセンターが
「第35回東北建築賞作品賞」受賞

Hear Our Voice
～世界の防災に向けて～
第3回国連防災世界会議
に参加

第6回
東北子どもまちづくりサミット
～ぼくらが叶える夢のまち～
開催

Hear Our Voice
～世界の防災に向けて～
岩手・宮城・福島県の子どもたちと
国連事務総長特別代表（防災担当）
との意見交換会実施

SOFT
中間報告書⑤
『Next』発行





第3回国連防災世界会議
世界中の子ども・若者とともに、世界のより良い防災に向けて声を発信！





子どもまちづくりリーダーツアー、復興庁に提言書提出！



国連事務総長特別代表（防災担当）
と記念撮影♪

■■SOFT中間報告書とは ■■

SOFTの活動のあゆみを説明するために、2011年より年に 1回、11月 20日「世界子どもの日」に合わせて発行しています。

■■『Next』(SOFT中間報告書⑤)とは ■■

2014年 12月～2015年 11月の SOFTの活動について報告しています。それ以前の活動については、
『HOPE』(SOFT中間報告書①)、『Action』(同②)、『Connect』(同③)、『Future』(同④)をご覧下さい。

くわしくは p26 へ

山田町
子どもまちづくりクラブ

けっぱれ山田 Toekomst(通称・KYT)

まちづくりのコンセプト 愛があふれる町 ～未来・伝統～

(仮称)山田町子ども交流センター

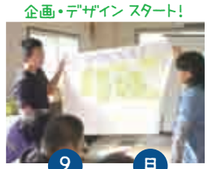
2012年夏、地域の方々へ復興に対する思いや意見をインタビューし、11月に町長と復興に向けたまちづくりについて意見交換をしました。その時、町が進めている復興整備計画「コンパクトシティ構想」に「子どもたちのアイデアを反映していきたい」という提案をもらいました。
そこで2013年春、私たちは「コンパクトシティ構想」に、子どもたちの意見を反映するために活動をし、子どもたちによるまちづくりのアイデア「ドリームコンパクトシティプラン」を考え、実現に向けて町長や地域の方々へ提案をしました。
その時の私たちの提案や石巻市子どもセンターの取り組みを知った町から提案があり、2014年9月から(仮称)山田町子ども交流センターの企画・デザインをはじめました。
この施設は、"小中高生世代をはじめとする子どもの居場所"と"図書館"機能を持ち合わせた公益施設です。陸中山田駅のそばに建設され、2016年春の完成後は町が地域の子どもたちの声をもとに運営していきます。

これまでのあゆみ

みんなの居場所になって、たくさんの笑顔が見れたらいいなあ。
みんなの想いがつまった施設なので、みなさんぜひ遊びにきてください♪



2014年


企画・デザイン スタート!
9月


地域の子どもやおとなに聞き取り
10月


岩手県内の図書館を見学♪
11月


4つの夢プラン模型を作成
11月


夢プラン模型を町長に紹介
11月


最終基本構想案が完成!
12月


内外装の色を検討・決定!
10月


条例前文を検討
11月

2015年


最終化したデザインを地域へ発表
2月


約150人でお祝い♪起工式
6月


地域のイベントでもセンターを紹介
9月

スタッフの声

(仮称)山田町子ども交流センターの建設が決まり、これまで以上に地域や行政、保護者と連携しながら活動を進めてきたKYTメンバー!わくわくした気持ちと同時に、公益施設を企画・デザインすることに対する責任感も見られました。県内外の図書館見学で得た学びをもとに、分からないことは積極的に設計の専門家に質問し、地域の声を大切にしながら、納得がいくまで話し合い。学年や経験関係なく、一人ひとりの視点から意見を出し合うことで、利用の幅を考えるきっかけにもなりました。2016年春にいよいよ開館しますが、これからも地域とつながりながら前進していくメンバーに期待しています♪

地域の声

子どもまちづくりクラブの活動も、(仮称)山田町子ども交流センターという大きな果実を得ようとしています。これまで積み上げてきたメンバーのがんばりは、これからの山田町の復興にも、大きな力となるはずです。これが新たなスタート地点になり、後輩たちに活動の種が蒔かれ、受け継がれて行くことと思います。その活動の中心になるのが、みんなが待ち望んだ図書館機能をもつ施設です。多くの町民の憩いの場になれるよう、一緒にがんばりましょう。

(山田町立図書館 辻井 一美 主事)

デザイン紹介


じゃ～ん

平面図の赤の部分はわいわいにぎやかにできる場所、
青が静かな場所、緑がその中間というように、
ゾーンで出せる音を分けて利用しやすくしています。
ガラスばりの中庭もあり開放感のある作りになっています。


わ～い

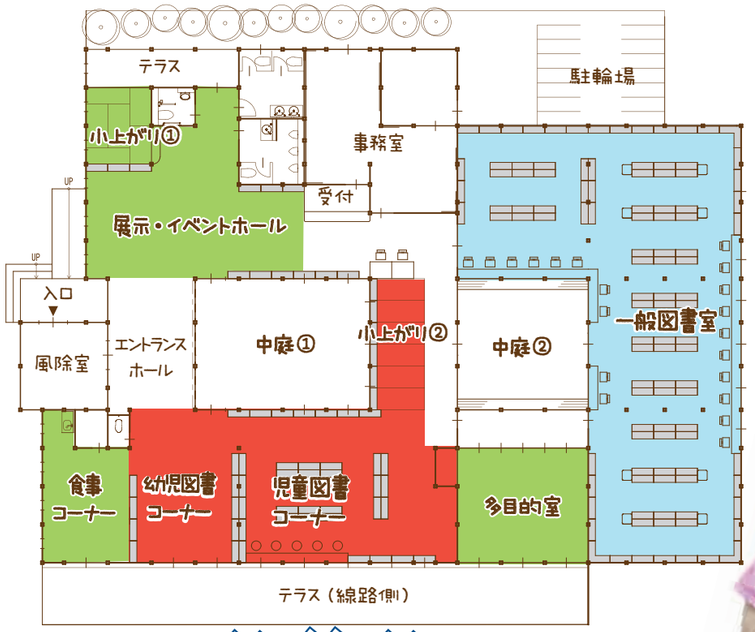
中庭①②
中庭①はイベントをしたり、ワイワイでき、
中庭②は静かに本を読んだり、くつろぐことができます。

一般図書室
車イスでも通れるように通路を広くしています。
閲覧コーナーは中庭を見ながら勉強や読書ができます。

小上がり①②
畳でこぢんまりとして、落ち着くことができる場所。
小上がり①は畳になっているのでお年寄りもゆったりでき、「山田町カルタ」大会や将棋などさまざまな活動ができます。
小上がり②は、子どもたちが使えます。

展示・イベントホール
本だけでなく、子どもやお年寄りなど全世代の作品やお祭りの展示もできるかも。

食事コーナー
幼児図書コーナーが隣なので、保護者が子どもの様子を見ながら食事ができます。
近くの共同店舗や商店街で買ったものを食べることができます。




ゴーゴー


よろしくね!

幼児図書コーナー
マットがあって小さい子も安心して利用できます。読み聞かせなどのイベントも実施予定!
窓や線路側のテラスから、山田線を通る汽車を見ることができ、子どもたちが興味をもってくれます。

児童図書コーナー
本棚を低くして子どもが使いやすいようにしています。ほこらは押入れのようなスペースで、ゴロゴロしながら本を読んだり、くつろいだりできます。

多目的室
通常は勉強・読書ができます。
KYTなど子どもたちのグループ活動や話し合いにも使えます。
映画会も実施予定♪

山田町公認キャラクター「まつしい」

「まつしい」の生みの親である私たち。
2015年は、「まつしい」と一緒に、保護者と協力しながら、町内外のイベントに参加しました!




3月 第40回開運!盛岡駅前100縁商店街


4月 山田町かきまつり


9月 山田祭り



山田町の特産品である"まつたけ"と"しいたけ"から生まれだがぁ♪
これからもメンバーと一緒に山田町を盛り上げていくので、応援よろすくなぁ!

陸前高田市
子どもまちづくりクラブ

絆 ~save the hope TAKATA~
(通称・絆クラブ)

まちづくりのコンセプト　生きるだけの町ではなく豊かに暮らせる町

進め！高田っ子！まちづくりフォト★第2弾

震災を風化させないために、写真を通して、「高田の『今』」を東北内外に発信する「進め！高田っ子！まちづくりフォト★」。
2013年につづき、第2弾を実施しました。2015年1月から私たちが企画をはじめ、今回は陸前高田市内の復興整備事業を担うUR都市機構の協力を得て、普段は入ることのできない復興工事現場で写真撮影！
小学4年生~中学3年生12名と絆クラブを卒業した大学生2名の計14名が参加しました。


復興工事現場を見学


フォトジャーナリスト佐藤慧さんと一緒にワークショップ


破砕（はさい）プラントや試験盛土（もりど）などで撮影


市内外の展示会を通じて発信！


クリアファイルでも発信！
市内小中学校をはじめ
東北内外で配布♪



変わりすぎた高田…
これからもがんばる

震災前の高田は海もきれいでいつでも遊べた。
今は公園も海も行けなくて遊び方が制限されていて、
早く元の高田に戻ってほしい。
がれきもなくなって復興が進んだなぁー。
（今年は遊べるかな？）

（ぶーちゃん　小5）

私たちが伝えたい「高田の『今』」







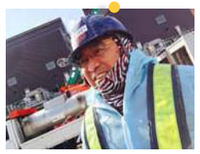
働いてくれている人たち

特に普段は見えない破砕プラントの人たち。自分たちが復興に関わりたいとか頭で思っている間に、現場ではがんばっているんだな。まず、現場で働いている人がいないと何も進まない。
ありがとうございます。

ゆうすけ

（ゆうすけ　中1）







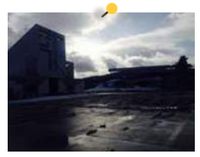












変わりゆく景色

これからもっと住みやすいまちになっていき、昔の町並みが変わっていくのはやはりさびしい。
昔の町を忘れずに、これから新しい町になっていく上で、建物などの保存は町の人の心にとどまり、昔の町はきっと、ずっと心に残り続けるだろう。

みく

（みく　中1）



小さくて大きな復興要員

高田の今と自分の思いを伝えるために、みんなで笑いながら夢中で写真を撮る絆クラブのメンバーの姿にひかれた。
自分たちのまちのことを夢中になって考えられる子どもたちこそが復興に欠かせない大切な存在だと実感。

あっか

（あっか　大1）



おとなの声 ~写真を見て~

大好きな高田のまちをみなさんの力で創ってください。震災の時のこと、そこから学んだこと、これからも私たちに教えてください。いつまでも応援しています。

かつての高田のまちが、記憶からも消えゆくのかもしれないという事実を、子どもたちが感じ取り、向き合っている点が印象に残りました。その子どもたちの見たもの感じたものに、本当の意味で復興のヒントがあるような、そんな思いを持ちました。

“まちのために何かしたい”という子どもの気持ちに素直に“ありがとう”が浮かんだ。



新しい図書館の建設に向けて！

私たちが2014年3月に実施した「進め！高田っ子！まちづくりトーク★第2弾」で、市長から「みんなでもう一度話し合って、再建予定の新しい図書館について意見をまとめて、要望書をだしてほしい」という提案をもらいました。そこで、2014年7月~11月はアイデアをえるために市内外の図書館を見学・利用しましたが、2015年も再建予定の新しい図書館について子どもの声を届けるためにさまざまな活動をしてきました！



7日
陸前高田市都市計画課の方から復興計画について聞き、意見交換



7日
地域の子どもたちに新しい図書館について聞き取り



図書館のことも
それ以外のまちづくりのことも
ぜひこれからも協力を
よろしくお願いします。
by 都市計画課職員

8日
首都圏の関連施設を見学♪

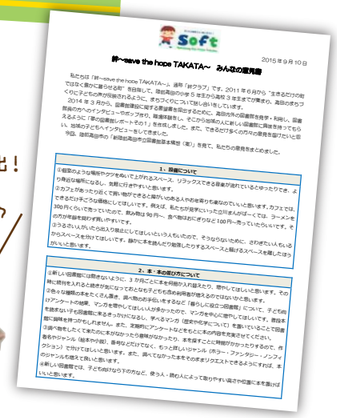


9日
市に子どもの声を届けるために意見書を作成



9日に
パブリックコメントとして意見書を提出！
今後も陸前高田市の
復興のために協力していきます♪





地域の声

絆クラブの子どもたちは、市内外図書館の見学や利用、体験学習、新図書館への意見書の提出など、積極的に図書館の再建について考え活動してきました。意見書には、読書のきっかけになる漫画を増やしてほしい、地域と連携したイベントの企画、スタッフはやさしくて笑顔が絶えない話し相手になる人、など生き生きした子どもの目線で考えたことを挙げてくれました。新しい図書館から羽ばたいて未来の陸前高田を創っていく絆クラブのみなさん、これからも期待しています。
（陸前高田市立図書館 長谷川 敬子 副主幹）

これからも子どもたちが復興に参加できるように！

4年4か月の絆クラブの活動、子どもまちづくりリーダーツアー2015で復興庁に提出した提言書をもとに、2015年10月27日、私たちは市長・副市長・教育長に提言書を手渡しました！

提言書
1、学校でも復興について学ぶ機会がほしいです
2、子どもとおとなが対等に話せる場がほしいです



各学校長にもお願いしていくので、
積極的にまちづくりに参加してください。
by山田教育長





スタッフの声

「自分のまちや復興に興味を持つことができた」「まちづくりに参加することで自分を変えることができた」と話す絆クラブメンバー。一人ひとりが“子どもが復興に参加することの大切さ”を感じ、強い意志を持って活動してきたのだと実感しています。まだまだ時間がかかるふるさとの再建。これからもより多くの子どもたちが復興に向けたまちづくりに参加できるよう、友達や地域の方々を巻き込みながら前進していくことでしょう。絆クラブを卒業したOGメンバーが語るように、まさしくメンバーは“小さくて大きな復興要員”です！ともにがんばっぺし！

石巻市
子どもまちづくりクラブ

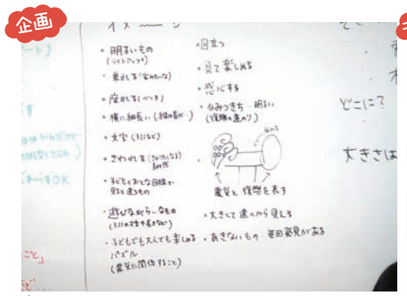
THE ローリング・ストーンズ
～俺等はそれをROCKと呼ぶんだぜ～

まちづくりのコンセプト 大人も子どもも過ごしやすい、古いものも新しいものも一緒に
Rock'n Rollのまち

震災を風化させないためのモニュメント

2014年12月に石巻市危機対策課の依頼を受け、私たちだからこそ体験した3.11/東日本大震災の恐怖、つらさ、命の大切さ、多くの人たちとかかわることでできた絆（人の温かさなど）、それに対しての感謝の思いを後世にも伝え続けていきたいと思い、2015年2月～3月に地域の方の協力のもとモニュメントを企画・制作しました。
モニュメントのタイトルは「♥パステル♥～Our WAVES from 3.11～」。“パス”＝受け継ぐ、“テル”＝伝える、“♥”＝心という意味を込めました。

企画



朽ちる素材である木をあえて使用！
数年後に作り直し、みんなの思いを受け継ぎます。
多くの人の目にふれ、使えるものとして、ベンチに決定！

デザイン



ロープで波を表現し、モニュメントの全長が3m11cmになるようにデザインすることに！

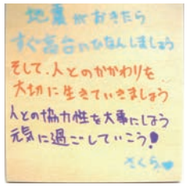
制作



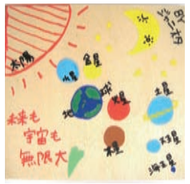
モニュメントにつける伝えたい思いを絵や文字で表現♪
集まった100名以上のメッセージ！







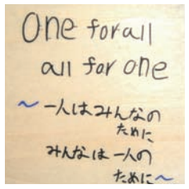


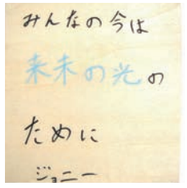




完成





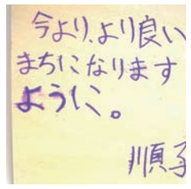














地域の声

モニュメントが今後も日々進化するのが、とても楽しみですね。お披露目式では、子どもたち一人ひとりから作品に込めた想いなどが語られ、とても感動しました。今度モニュメントを更新する時には、どんな作品になるのか、とても楽しみにしています。今回の活動を通じて、私は子どもまちづくりクラブや子ども会議メンバーに色いろな可能性を感じており、今後何か別の機会でも、また子どもたちと一緒に取り組んでいければいいなと思っています。
（石巻市牡鹿総合支所地域振興課 武山 勲 課長補佐/元・危機対策課所属）

石巻市子どもセンター周辺の商店街の活性化に向けて！

2014年に作成した「HONOBONOまちあるき～立町大通り商店街マップ～」
商店街の方から依頼があり、2015年5月に地域のイベントでマップを配布しました。









商店街のマップができてね、
子どもたちがね、いっぱい来てくれたよ。
by 商店街店主

お店のことを知らない人がいる中、商店街について新しい発見ができました！感謝しています。
by 商店街振興組合理事長

石巻復興状況視察ツアー

「震災から4年経った今の石巻の復興状況を知りたい」と思った私たちは、2015年6月～7月に石巻のまちに飛び出し、視察をしました。

仮設住宅



色んな意見が聞けた。
コミュニケーションが大切ということに気付いた！

復興公営住宅



市も2019年には全世帯が引越し完了できるようにがんばっているんだな。

黄金浜プレーパーク



子どもが自由に遊べて、火もつかえる公園があるなんて、初めて知れた♪

門脇地区



復興祈念公園に子どもの意見を反映させてほしい！

避難タワー



避難タワーは最終手段。
もっと避難訓練をしたほうがいいと思う。



魚市場



世界最大規模の魚市場が8月に完成！
これぞあれらが海のまち♪

※ 石巻市子どもセンター完成とともに、石巻市子どもまちづくりクラブは石巻市の事業として移管され、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは運営サポートを行っています。



石巻市子どもセンター「らいつ」を
拠点に、私たちが架け橋となり
人とまちをつなぎ、
Rock'n Rollしていきます。

スタッフの声

活動4年目のメンバーが多い中、センター利用者など新たなメンバーが加わり日々進化していく「THEローリング・ストーンズ」！
「今の復興状況を知りたい」「石巻ってどんなまちかもっと知りたい」、そんな声からこの一年は“調べる”“知る”という活動が中心でした。この経験をもとに、今後はグループに分かれ、それぞれのテーマに向かって活動していきます。石巻がもっと素敵なまちになることを願い、活動するメンバー。みんなを見ていると石巻の可能性を感じます。これからの子どもまちづくりクラブ、そして石巻に期待です！そんなみんなを職員も全力でサポートしていきます！
（石巻市子どもセンター 進士 知子 職員）

★石巻市子どもセンター らいつ★

Ishinomaki City Children's Center

石巻市子どもまちづくりクラブメンバーが、2011年夏に描いた“夢のまちプラン”を約2年半かけて実現した児童館！石巻市子どもセンター条例前文には子どもたちの声がそのまま採用され、まさに子どもによる子どものための施設です。2013年12月の完成後はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンから石巻市へ寄贈され、2014年1月の開所後は行政が子どもたちとともに運営しています。
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、行政や職員の方々と連携しながら、「らいつ」が子ども参加、そして子ども・子育て支援の拠点となるように運営サポートを行っています。

★ コンセプト ★
石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営する施設。
みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所。

★ 愛称「らいつ」の由来 ★
英語でrights（権利）、lights（光）の意味をもたせ、子どもの権利の拠点として、
未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するという願いが込められています。



★開館後の1日平均利用者約95人！のべ利用者約57,000人！　※2015年10月末時点
就園・就学前の親子から小中高生世代が思い思いの形で利用する居場所となっています♪


親子で一緒に♪


地域の方と！


友達と一緒に♪


思い思いに過ごす放課後


子どもたちのアイデアで誕生する企画も！


高校生が講師となって♪

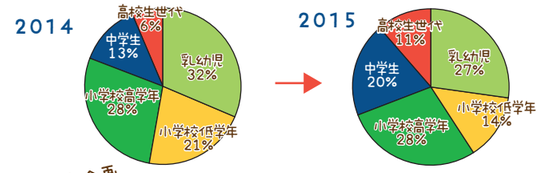

思いきり体を動かして


時には出張して移動児童館

★子どもたちの声で開館時間が延長に！
「部活の後に来たい」「もっと長く利用したい」という中高生世代の声を受け、利用者へのアンケート、子ども会議や運営会議での検討をへて、土日も19時までの利用が可能になりました。



★利用する中高生世代が急増！
職員研修を通じて、より多くの中高生世代が利用できるように対策を考えた結果、中高生世代利用者が31%に増えました。



中高生世代の声でうまれた色々な企画


屋上でバーベキュー


模擬選挙

★「らいつ」を拠点におとなも成長！
子どもを支える担い手として、地域の子ども・子育て支援団体・関係者を対象とした研修も積極的に行いました。





開館2年目、商店街をはじめ多くの市民に「らいつ」さんと呼ばれ、すっかりまちの一員になりました。「らいつ」がたった1年で、ここまで浸透するとは予想以上です。2015年はまちの復興が進み、5月には仙石線が開通し、商店街に新しい街路灯が設置されました。そのイベントで石巻市子どもまちづくりクラブが制作した商店街マップを配布したり、2013年秋の子どもたちのアイデアから実現したハロウィン祭りを昨年に引き続き商店街と連携して行うなど、「らいつ」を拠点に子どもたちが地域とつながってきた成果なのではないでしょうか。また、土日の開館時間の延長に伴い、中高生世代のスポーツ、ダンス、音楽といった利用がぐんと増えています。石巻を活性化しようとアイドルも結成されました！これからも子ども参加の新しいムーブメントを「らいつ」から発信していきたいと子どもたちの力に期待しています。

（石巻市子どもセンター　原 京子 施設長）

東北子どもまちづくりサミット

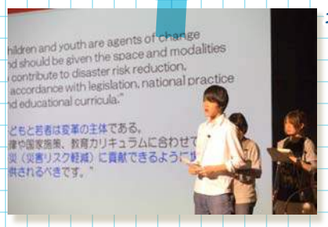
「第6回東北子どもまちづくりサミット～ぼくらが叶える夢のまち～」@宮城・仙台
2015年5月5日　こどもの日　参加者213名（1都1府10県の子ども82名、おとな131名）

3地域の子どもまちづくりクラブメンバーに加え、Hear Our Voiceの活動として第3回国連防災世界会議に参加した岩手・宮城・福島県の代表の子どもたちが、復興に向けた子どもたちの思いや意見、これまでの活動や地域の状況を発表。市長や議員など政策を決める方をはじめ行政・保護者・地域の方など、全国の子どもとおとなが一緒に、より良いまちにするために話し合いました。


会場に飛び出して、参加者に突撃インタビュー♪



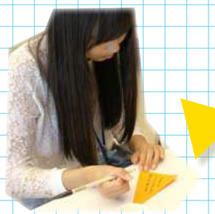





子どもからおとなへ！
おとなから子どもへ！
“未成年の主張”


ワールドカフェ形式で、みんなで話し合い♪

今年の話し合いのテーマは
“復興に向けて、もっと多くの子どもが、これからもまちづくりに参加できるようにするために何ができるか”



自治体は
まちづくりを考える時に、
必ず子どもたちの代表を
メンバーに加えるべき

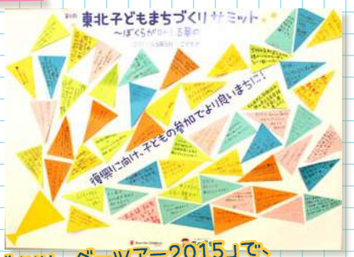
子どももおとなも、
相手やまちについて、もっと知って、
もっと考えるべき

おとなは
子どもが今・未来をつくる大切な
パートナーであることを
知るべき

一人ひとりメッセージを記入♪



もっと学校内で
復興やまちづくりについて
考える機会や環境を
つくるべき



集まった参加者の声をもとに、「子どもまちづくりリーダーツアー2015」で、
子どもたちが提言書をつくり復興庁に届けました。

くわしくは P17 へ

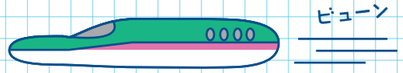
子ども・おとなの声 ～サミットに参加して～

- まちづくりで、こんな考えもあるんだな、これは思いうかばなかったな、と考えることができた。（沖縄県・11才・女）
- たくさんの人からの目線でものごとをしっかり見れたような気がしました。（大阪府・16才・女）
- “子どもも同じ市民・住民・まちづくりの手”を改めて実感。（NPO・NGO関係者）
- 同じ市民なのに、子どもたちの意見がまちづくりに反映されにくいこと、そして子どもたち自身がそれをとてもはがゆく、とてもくやしく思っていることを痛感した。（行政・議員関係者）

子どもまちづくりリーダーツアー

「子どもまちづくりリーダーツアー2015」@首都圏

2015年 8月 2日 ～8月 5日　参加者 37名



●岩手県山田町、陸前高田市、宮城県石巻市の子どもまちづくりクラブメンバーとHear Our Voiceの活動に参加した福島県のメンバーが首都圏へ行き、復興に向けたまちづくりの取り組みをより良いものにするために、復興庁に政策提言をしたり、参考になる施設を見学しました。地域も年令も異なる子どもたち同士が交流を深め、これまでの活動を振り返りながら、地域の復興に向けた今後の活動への新しいアイデアを発見する機会となりました。

●1日目：オリエンテーション＆話し合い　提言書完成に向けて！


3県の子どもたちが3か月ぶりに集合♪


活動を通じた自分や地域の変化を話し合い


みんなの思いをもとに復興大臣への提言書を作成

●2日目：復興庁訪問＆活動報告会　みんなの思いを届けよう！


復興庁訪問、活動報告会に向けて、みんなで準備


4年間の活動をもとに、復興大臣に提言書を提出！


これまでの活動を首都圏のみなさんに報告！

●3日目：フィールドワーク　復興に向けたまちづくりに活かせるアイデアを学ぼう！

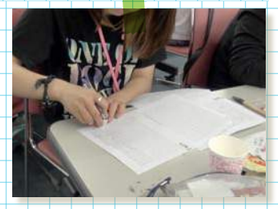

地域とつながる「小平市立仲町図書館」を見学


まちの活性化につながる「立川まんがぱーく」を見学


子ども参加の専門家の話を聞いて新たな学び

●4日目：話し合い　10年後の地域の姿とその時の自分を想像して


どんな 10年後のふるさとをつくりたいか話し合い


一人ひとり、思いを作文に！



新たな気づきや学びの多い 4日間でした♪

子ども の 声 ～リーダーツアーに参加して～

⊙ほかのちいきといけんこうかんできたし、物事をいろんなしやでみれるようになれた。（石巻市・12才・男）
⊙復興大臣に会って、実際に自分たちの願いを届けることができて、地方で止まっていてはいけなくて、国までいかないと全国に届かないとわかった。（陸前高田市・15才・女）
⊙私たちの想い、願いがちゃんと届いていて、今すぐにでも、かなえてくれようとしてくれていることがうれしかった。（山田町・14才・女）
⊙みんなの気持ちが高まっていた。自分も楽しくなった。（いわき市・18才・女）

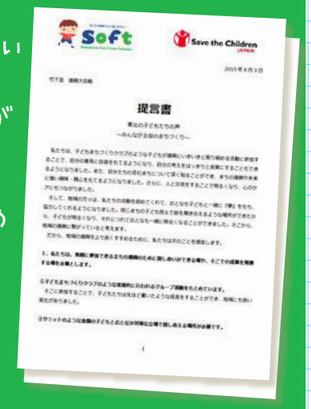
●フィールドワーク協力者・団体
安部芳絵氏、(株)内田洋行、小平市立仲町図書館、立川まんがぱーく

今年の子どもまちづくりリーダーツアーの目玉！

2011年12月の市町や県への意見書提出、2012年2月の復興庁への意見書提出に引き続き、震災から4年半を前に、子どもたちがその思いを提言書にまとめ、復興大臣へ提出しました。

提言書
東北の子どもたちの声～みんなが主役のまちづくり～

1、私たちは、気軽に参加できるまちの復興のために話し合いできる場や、そこでの成果を発表する場を必要とします。
　①子どもまちづくりクラブのような定期的に行われるグループ活動をもとめています。
　②サミットのような全国の子どもとおとなが対等な立場で話し合える場所が必要です。
　③学校教育の中で学べる場がほしいです。
2、子どもが復興に向けて意見を発信したり、そういった機会や場に参加するためには、おとなの理解をはじめとする様々な環境を必要とします。
　①私たちは保護者の理解を求めています。
　②子どももおとなも理解しあうための時間や機会が必要です。
　③子どもとおとなが対等に話せる場がほしいです。
　④情報量の差をなくすために、復興に関する情報を分かりやすく教えてほしいです。





おとなの声

復興庁のホームページで子どもたちの活動を紹介していく。また、学校教育の中で機会をつくれるよう検討していく。さらに、こういった話し合いの場をつくり、情報をしっかり入手するための会合の場や分かりやすいニュースレターの作成もしていかなければならないと思う。
世界で一番苦しい思いや経験をしたみなさんの中から世界に通用する人が必ず出てくる。私たちはそんなみなさんが世界に向かって飛び出していけるように環境をつくっていきたい。これからも地域のおとなをどんどん巻き込んで、素晴らしい東北をつくっていってほしい。

（竹下 亘 復興大臣　※当時）



Hear Our Voice ～世界の防災に向けて～

2012年から継続して、東日本大震災を経験した子どもたちが、自分たちの経験にもとづき、防災（災害リスク軽減）についての思いや意見を自ら世界に発信！世界の防災をより良くするために活動しています。

第3回国連防災世界会議

2015年3月、災害から私たちの命を守るための新たな国際的な行動計画が採択される第3回国連防災世界会議が行われました。そこで、岩手・宮城・福島県の子どもたちも、2014年12月の国内での事前ワークショップ、3月12・13日の各国の子どもたちとの準備ワークショップ、14日～18日の本体会議を通じて、世界のより良い防災に向けて東北の子どもたちの声を発信しました！

●2014年12月20・21日：事前ワークショップ

岩手・宮城・福島の子どもたち41名が、第3回国連防災世界会議に東北の子どもの声を届けるために、防災について話し合いました。





子ども の 声 ～ワークショップに参加して～

- 自分の中にあった震災についての気持ちに気づけた。（岩手県・12才・女）
- 小さい子の意見を聞いて、小さい子にもまだまだ足りないものがあったのを知って、違う視点からの意見も大事だって学んだ！（福島県・16才・女）
- 被害は津波だったり原発だったり違うけど、どうしたいかは同じ！！（宮城県・17才・女）

●2015年3月12・13日：準備ワークショップ

事前ワークショップに参加した子ども同士で決めた岩手・宮城・福島県の代表メンバー3名が、仙台に集合！本体会議に先がけ行われた準備ワークショップでは、セーブ・ザ・チルドレンも参加しているグローバルネットワーク「気候変動の時代を生きる子どもたち」のインドネシア・モンゴル・ペルーの子どもたちとともに、一人ひとりの災害の経験や防災に向けた活動を共有しました。







代表メンバーの声 ～ワークショップに参加して～

- 震災時の話をして、4年前のことなのに、ついこないだのことのように、記憶がよみがえってきた。思い出す、いいきっかけになった。今までは自分が言ったことによって、周りがどう思うかとか、マイナスな気持ちになるんじゃないかなとか、笑顔が減ることを恐れて、話せずにいた。不安だった気持ちが減って、話した後、気持ちがスッキリした。（宮城県・16才・女）

●2015年3月14日～18日：本番

いよいよ本体会議がスタート！
日本代表メンバーも、各国の子どもや若者とともに、東日本大震災を経験した子どもたちの思いや意見を届けるために活動。
世界187カ国から参加した各国政府・国際機関関係者などに働きかけました！





★17日に実施された本体会議分科会では、日本代表メンバー1名も東北をはじめ世界の子どもの声をもとにスピーチし、政策決定者に訴えました！



私は行政をはじめとするおとなに、子どもが復興に向けたまちづくりに参加できる機会やきっかけの提供を求めます。
なぜなら、被災した時、子どもの立場はどうしても低くなってしまい、なかなか自分たちから意見を出すことができないからです。
子どもだからこそできることがあると思います。子どもの力をおとなに認めてほしいです。子どもがおとなから学ぶことがあるように、おとなが子どもから学ぶこともあると思うのです。





代表メンバーの声 ～もし私が国連事務総長だったら～

- おとながフォローして、被災したときに子どもならではの思いや経験を伝えていける環境づくりをします。（岩手県・15才・女）
- どんなに大きな災害が起こった場合でも、子どもの笑顔が見れるように、子どもが外で遊べる場をつくりたいと思います。（宮城県・16才・女）
- 私は今の福島の子どもが置かれている状況を二度と繰り返さないよう、絶対原発事故が起きないような防災対策を世界に義務づけます。（福島県・15才・男）













☀ 第3回国連防災世界会議の成果

第3回国連防災世界会議では、2015年から2030年までの防災に関する国際的な行動枠組み「仙台防災枠組2015～2030」が採択されました。その中で多様な関係者による協働の大切さもあげられ、子どもと若者の役割が次のように明記されました。



> “子どもと若者は変革の主体であり、防災（災害リスク軽減）に貢献できるように場や機会を提供されるべきです。”

これは、各県の代表メンバー3名および世界の子どもたち、さらに世界中から多くの若者が、本体会議分科会での発表などを通じて、政策決定者に働きかけてきた成果といえます。

子どもたちと国連事務総長特別代表（防災担当）との意見交換

●2015年8月29日

国連国際防災戦略事務局（UNISDR）駐日事務所の協力のもと、岩手・宮城・福島県の子どもたち7名が国連事務総長特別代表（防災担当）マルガレータ・ワルストロム氏と意見交換をしました。
2012年7月・10月、2013年2月・10月に続き、5回目の機会となりました♪



被害を防ぐために、地域の若者とお年寄りが日頃からつながりをもち、災害時に一緒に避難したらいい。また、これからの復興には、地域の人の心の復興も伴わなくてはいけない気がする。
（岩手県陸前高田市・15才・女）

避難していた時もいまも風評被害はあるけど、福島に足を運んだり、福島の人の話を聞いたりして知ってほしい。子どもをはじめ幅広い年代に正しい情報を伝えてほしい。
（福島県いわき市・17才・女）



原発についてもっと話し合った方が良いと思うし、みんなで知恵をしぼって安全で安心なエネルギーを生み出していくことが必要だと思う。
（宮城県石巻市・14才・女）

学校で、子どもまちづくりクラブの活動を参考に、防災や復興について話し合ったり、何か起こった時には子どもとおとな一緒に話し合ったほうが、復興がすすむと思う。
（岩手県山田町・13才・男）

おとなの声

みなさんは物理的な復興だけではなく、社会的、心理的な復興を大切だと感じているのだなと思いました。だからこそ、情報へのアクセスや復興のプロセスに参加することを大切だと思っているのですね。
みなさんの活動が世界中の子どもたちに勇気を与えることでしょう。「仙台防災枠組2015～2030」の一つの大きな柱として、“build back better”ということが明記されています。復興の過程でより良いまちをつくることですが、なかなか今まで実例というのがあまりなかったので、ぜひ、みなさんの活動を通じて、より多くの人に知ってもらえたらいいなと思います。だから、みなさんの活動を積極的に発信していってほしいし、国連国際防災戦略事務局でもホームページなどで共有していきたいです。
（国連事務総長特別代表（防災担当） マルガレータ・ワルストロム 氏）



■■子どもの声 ～ 活動をふりかえって～■■

山田町

僕は、前は自分の思いをみんなの前で話すのが苦手で、そんな自分が、自分の住むまちのために意見を出す活動に入るとは、思っていませんでした。この活動があったおかげで自分がみんなの前で積極的に話せるようになったし、3地域から来た同世代の友達とも仲良く話せるようになりました。
さらに地域の中では僕たちの活動を応援してくれている人たちがたくさんいます。（仮称）山田町子ども交流センターの起工式の時には、近くの学校からイベントの手伝いをしてもらったり、町長さんもセンターが建てられることに期待してくれていることを知りました。僕たちの活動は、たくさんの人たちに支えられているんだと思いました。
将来大学を卒業したら、山田のことをたくさん知って復興に関する意見を出したり、町民の意見を尊重しながら復興計画ができる仕事に就きたいと思っています。もしその仕事に就き、計画を立てられるようになったら、山田のゆるキャラグッズを考えて山田のPRをしたり、観光客がたくさん来られるように話し合ったりして、山田の人口が今よりもっと増えて活気あふれるまちにしたいです。
（1年3か月・13才・男）

私は、2012年の8月から活動をしています。思い出はたくさんあります。
2011年のあの日、私は現実から逃げていました。外を見ればガレキがつみあげられていて、その頃私は、山田町は汚れていると思ってしまっていました。でもその頃から山田町としっかり向き合いたいと思いました。だってこのままだったら、山田町を嫌っていることになるからです。
2013年に作ったドリームコンパクトシティプランを町長に提案しに行って、発表して、自分の思ったことを伝えられました。その8月から、「まつしい」と一緒に地域のイベントに参加して、小さい子とも触れ合うことができました。9月に「まつしい」が山田の公認キャラクターになってからは、町内でのたくさんのイベントに参加することができました。それとともに、メンバーの保護者の協力で「まつしい」がクッキーなどにもなり、色々な形で「まつしい」の知名度が上がってすごくうれしいです。
学校での自分はあんまり発言をしないので、これからは自分の意見をしっかりと持って発言していきたいです。友達にも、先生にも、わかってもらえるように。家では、お母さんにはこれからも関わってもらえるように、活動であったことを教えてあげたいと思っています。
（3年6か月・13才・女）

ぼくは、この活動に参加してなかったら、毎日なんとなく過ごしていたと思います。この活動を始める前や始めたころは、ズバズバ意見を言う人に合わせていましたが、自分の意見を言えるようになって、先生からも、「だいぶ自分の気持ちを伝えられるようになったな」と言われました。（^_^）友達もTVや新聞で活動を見て、「色々出てるな」「お前こんな活動してたのか、すごいな」と言って学校に新聞を持って来たりしました。
中3の時に公民で人権などを習って、みんな「生きるとか当たり前じゃん」と言っていました。でもぼくは子どもまちづくりクラブをしていたので、「当たり前のことが当たり前じゃないんだろうな」と思いました。
活動をやっていると楽しくて、社会に触れていると感じます。応援してくれている企業のことも知って、調べるようになりました。役場の人や町長さんとも話すようになって、復興計画や町の考え方も興味を持つようになりました。
これからももっと復興に協力したいです！！
（4年3か月・15才・男）



☀この文章は、子どもまちづくりクラブメンバーが2015年の活動で作成した内容や、メンバー有志が座談会を通じて書いた内容をまとめたものです。
（）の中は、（活動期間・年令・性別）です。

■■子どもの声 ～ 活動をふりかえって～ ■■

陸前高田市

私は2014年3月に第6回アジア防災閣僚会議事前ワークショップに参加して、絆クラブについて知り、これからの高田はどうなるのか知りたいと思って、絆クラブの活動に2014年4月から参加しています。
私は、まちづくりに参加することで、自分を変えることができました。前ははずかしがって、人前で上手に自分の意見、自分のきもち、自分やまちのことがなかなか話すことがむずかしかったです。それに比べて今は、自分のことや意見、きもちが少しでも、伝えられるようになり、自分から手を挙げることもかなり増えました。今の自分と前の自分はちがうと思います。
活動を通じて、私も前よりまちのデザインに興味を持ったので、これからのまちづくりでも地域の人たちと市の人たちとの交流、協力を大切にしていきたいと思います。（1年7か月・12才・女）

僕は、以前は周りの人がすべて嫌で、あまり人と関わらないように生きていました。学校にも行かずに、自分の部屋に引きこもりがちでした。また、おとなは自分の考え、行動、人格すべて否定する生物だと思っていました。
そんな僕は、2013年の3月の活動を家族から紹介され、熱いで参加することになりました。子ども同士や市長さんとの話し合いでしたが、学校も学年も違う人たち同士が話をしているのが魅力的で、楽しそうに感じました。
活動に参加するようになって、引きこもりも解消されました。学校の先生が子どもまちづくりクラブ報告会に来てくれたことがきっかけでした。学校にも保健室登校だけど行けるようになりました。その後教室に一日いれるようにもなり、勉強も人並みにするようになりました。また、おとなとも話そうと思うようになりました。活動を通じて、子どもの声を聴いてくれるおとなにも出会ったからです。おとなの中にも優しい人がいると思えるようになったから、おとな恐怖症が若干治りつつあります。
前は特に夢とかなかったけど、今は、子どもに関わる仕事につきたいと思い、保育士を目指しています。おとなから「～しなさい」というのではなく、子どもの希望に応えられる保育士になりたいです。（2年8か月・14才・男）

私は2012年8月のミニ「あかりの木」のペイントから参加しました。その時、復興に興味はなかったのですが、何かを作るのは好きだったので、これからも参加していきたいと思って、絆クラブの活動に参加し続けています。
私にとって、まちづくりに参加することは、大きく2つの意味があります。1つ目は、自分を変える、新しくつくること、ということ。2つ目は、今までまちが歩んできた歴史、これから進んでいく未来に興味を持つことができる、です。
私は、まちづくりに参加することで、人の目を見て話せるようになりました。今でも人見知りはしてしまうので、いつも話せる、という訳ではありませんが参加する前よりはよくなったと思います。もう1つあります。意味の2つ目と関連していますが、地域について興味を持てた、ということです。参加する前は、知らない、興味が無いどころか、まちをあまり良く思っていませんでした。活動に参加してみて、高田はこれから新しいものができるんだ、変われるんだ、と思うようになりました。期待をすることと同時に、興味をもつようになりました。
私は10年後、お年寄りの方とかかわる仕事につきたいと考えています。その時、どこかの世代だけが住みやすいまちになっていないかを注意して見たいと思います。今は、まちづくりに子どもの声が反映されるよう、市に意見を言っていく、ということをがんばっていきたいです。（3年3か月・14才・女）



石巻市

ぼくが子どもまちづくりクラブに入ったのは姉がこの活動の話をしていて、興味を持ったからです。
活動に参加して、物事をいろんな視点で見れるようになったり、自分から意見を発言したり、積極的になりました。活動の時だけでなく、学校の意見を出すポストのようなものに意見を出したりできるようになりました。まちをこうしたいという考えがなかったり、復興はおとながやるものという以前の考えも大きく変わりました。
もっとまちがよくなれば夢もひろがっていくと思うし、楽しく、たくさんの人も来てにぎやかになると思います。色んな人があつまってその人なりの考えを出してよりよい意見にし、それを実現しようと努力すれば、その通りにならなくてもいい方向に進んでいくと思っています。（8か月・12才・男）

私は、活動をする前までは人前で話すのが得意ではなく、自分の想いを自分の中だけで持っていました。でも活動に参加してからは自分の想いを誰かに伝えたいと思うようになりました。言葉を発すれば誰かが聞いてくれているから。
関わることのなかったはずの子どもまちづくりクラブメンバーや地域・全国の方々と関わって、活動に参加しなかったらできなかったたくさんの経験をしてきました。その経験は、今の自分の自信であり、武器です。
復興に向けて、これからも多くのことを解決していくと思いますが、その中心となっていくのは私たちです。まだまだ、自分にはたくさんの可能性があるはずだから、これからも自信を持って前へ前へと進んでいきたいです。（3年3か月・15才・女）

一般的に見たらどうでも良いことを夢中になって話せるのが石巻市子どもまちづくりクラブの良いところだと思います。どうでも良いことを熱心に話せるということは、どうでも良くないこと（大切なこと、真面目なこと）はもっと熱心に話せるということです。私は中1から今までそんな環境の中ですごしてきたので、学校でも家でもよくしゃべります。逆に、子どもまちづくりクラブのメンバーは、家族のような安心感、友達のような親近感その両方を持ち合わせています。もちろん、もとから気が合う性格だったのもあるかもしれませんが、活動を通して対立したり、励まし合ったりして、子どもセンター完成まで切磋琢磨したから生まれたのだと思います。私は、気が合わない人と関わるのがすごく苦手でしたが、今は苦でありません。それは、活動で色々な人と関わってきた経験によるものだと思います。幅広い性格の人とコミュニケーションをとることができるようになったので、私はみんなから意見をききだせるような存在になりたいです。そして、コミュニケーションがおとなの力なしで子どもたちの間だけでできて、活発な意見交換が自然と飛び交うまちづくりをしたいですね。（4年3か月・16才・女）

東日本大震災からもうすぐ5年。この5年間でまちの風景や人々の生活は変わっていき、自分自身の心にもさまざまな変化があった。自分の住むまちへの想い、人との関わり、家での自分、学校の自分。
今までは興味がなかった自分の住むまちや地域の活性化に興味を持ち、今まで以上に自分の住むまちが好きになった。もし自分が活動に参加していなかったら、自信を持って何かを行うことも復興について考えることも一切なかっただろう。
自分は将来、自分の住むまちをより良くしていくために公務員となり、地域の方々と密接に関わり多くの意見を取り入れ、“大人も子どもも過ごしやすい”まちにしていきたい。そしてこれからもっと多くの子どもたちが復興に向けて声をあげ参加できるように、自分たちの活動を広めていき、自分の住むまちを好きになる人が増えていってほしい。（4年3か月・18才・男）



■■ 専門家の声 ■■

子どもたちに最初に出会ったのは2011年8月、子どもまちづくりリーダーツアー2011でした。多くの子どもたちは、自分の考えていることを表現することに怯え、他人の言うことに対しても心から耳を傾けられなかった、つまり“対話”ができていなかったように感じます。早いものでそれから4年以上の月日が立ちました。その間、子どもたちは“受け入れられる”という経験を積み重ねることで、他人の考えを“受け入れる”という素地ができあがり、お互いがあるがままの状態でまちづくりに取り組んでいけるようになりました。
現代の教育的な課題の一つとしてコミュニケーションスキル（対話の力）の向上があげられていますが、これは単に自分の意志を伝えるという技術としてのコミュニケーションに留まるものではありません。自己を開示すること、他者に受け入れられること、それによって深い自己肯定感（自分が自分であって大丈夫という感覚）が得られるのです。この自己肯定感の深まりが子どもたちのさまざまな力をますます引き出し、総じてより良い社会の実現に大きく寄与していくといえます。
エンパワメントとは、その人が本来持っている力を発揮できるように促していくことですが、まちづくりという活動を通じて、子どもたちは“受け入れ—受け入れられる”という関係の中で、自分の存在を受け入れ、自分自身をエンパワーし、また関わる他者をもエンパワーしたといえるのではないでしょうか。



立命館大学文学部人間研究学域
荒木 寿友 准教授

子どもまちづくりクラブの子どもたちがここまでのことを成し遂げたのは、第一に子どもたち自身の力である。そして、忘れてはならないのが、子どもたちを支え続けた、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのスタッフの力だ。
子どもたちが被災から回復し、まちをつくる主体となっていくことができたのは、一人ひとりの子どもたちの置かれた状況に合わせて支援のありようをしなやかに変えていったスタッフの支えがあったからだ。一人ひとりに根気強く寄り添い、つぶやきをひろって、形にしていく。簡単なようで、誰にでもできることではない。子どもに一番いいことを子どもと共に考えていくという子どもの権利条約の理念に基づいた専門性があってこその子ども支援である。
選挙権年齢が18才に引き下げられ、若者の政治参加、社会参加の必要性が声高に叫ばれるようになってきた。しかし、どのようなはたらきかけがあれば子どもたちが主体的に動くことができるのか、学校や地域でたくさんのおとなが頭を抱えているのが現状である。子どもまちづくりクラブは、東北だけでなく、日本全国で子どもの社会参加を進めていく上でも参考になることはまちがいない。



工学院大学基礎・教養教育部門
安部 芳絵 准教授

■■ おとなの声 ～活動をふりかえって～ ■■

山田町

子どもたちの活動が大きな形として見えてきました。山田町は駅を中心としたまちづくりを進め、大型商業施設や銀行、郵便局などの建物を集約させる計画です。そのエリア内に「子どもたちが集える建物があればいいね」ということで、山田町子どもまちづくりクラブが地域を巻き込みながら企画・デザインし、（仮称）山田町子ども交流センターの建設が始まりました。一部図書館機能も併設します。被災地の子どもたちの建物として成長してほしいものです。



山田町
佐藤 信逸 町長

来年いよいよ（仮称）山田町子ども交流センターが開館します。子どもたちの想いと夢がつまっているセンターから、どのような交流が生まれ、その輪が広がっていくか楽しみです。町の将来を担う子どもたちが、協力して生き生きと活動している姿を誇らしく、そして、頼もしく思っています。施設完成がゴールではなく、山田町がますます“愛があふれる町”になるように、これからも子どももおとなも一緒に力を合わせていきたいと思います。



山田町教育委員会生涯学習課
片山 未来 主事

山田町の拠点整備は、ようやく具体的に復興が進み出し、私どもが建設する共同店舗棟を中心に色いろな商業施設が2016年9月にはオープンします。その一翼を担うのが、現在建設中の（仮称）山田町子ども交流センターです。子どもたちが、約3年前から主体的に計画し、図書館機能も備えた新しい『街』が、楽しく魅力的な場所になるように考えられた施設になります。これからも、みなさんの豊かで素直な感性で私どもと一緒になって『街づくり』をガンバリましょう。大いに期待しています。将来は、あなたたちのものです。



（株）共同店舗棟建設運営会社山田
阿部 幸榮 代表取締役

息子が活動に参加して1年が経ちました。山田町のために何かをしたい！そんな思いがどんどん大きくなっていくのが伝わってきます。この1年は（仮称）山田町子ども交流センターの建設に向けて、様々な施設を見学し、デザインをみんなで何度も話し合い、より良いものにしようと町の人から意見を聞き、交流してきました。子どもたちの思いが詰まったセンターの来春オープンがとても楽しみです。そして、その施設を使って山田町の子どもからお年寄りまで、さまざまな人たちが楽しく交流できたら素敵だなあと思っています。子どもたちのますますの活躍が楽しみです！



保護者
八木 通子 さん

陸前高田市

子どもたちが地域の一員として陸前高田市の復興やこれからのまちづくりについて真剣に考え、市内を回り復興状況の撮影・展示した「まちづくりフォト★第2弾」の実施や「子どもまちづくりリーダーツアー2015」での復興庁への提言書の提出、施設の視察などの活動を通じて、みんなでまとめた提言を市へいただいていることにとても嬉しく、心強く感じています。
みんなが“おとなになった時、「いいまちになった」と思えるようなまちづくりを今後も進めていくので、これからも陸前高田の良さや足りないものがあれば積極的に教えてほしいです。



陸前高田市
戸羽 太 市長

あの大震災から間もなく5年。本市の復興も着実に進み、新しいまちづくりに向け大きく踏み出そうとしています。その中で、子どもたちがまちの復興や未来に大いに興味・関心をもち、新しいまちづくりに自分の考えをはっきり言葉にするなど積極的に参加しようとしていることは、陸前高田の将来にとって大変頼もしいことであります。また、そのことで、子どもたち自身が自分に自信が持てるようになってきたことも大変嬉しく思います。新しい陸前高田市がみなさんの夢が叶うような「まち」となるよう、子どもたちに期待しております。



陸前高田市教育委員会
山田 市雄 教育長

子どもたちに初めて会ったのは「まちづくりフォト★第2弾」の展示のため、りくカフェに来てくれた時。真直ぐな視線と心情のパネルに、私たちは希望を感じ、感想ボックスにはおとなからのエールが寄せられました。回収作業のわずかな時間の会話からも、自分の意思で活動していることが伝わってきました。“おとな・子ども”ではなく、新しいふる里を創りあげる“同志”だと感じました。世代を超えて積極的に参画し「私たちのまち」を創りあげましょう。こうしては居られないとハッパを掛けられた出会いでした。（また、素敵なハーモニーを聞かせてね！）



特定非営利活動法人りくカフェ
及川 恵里子 さん

娘が子どもまちづくりクラブに参加して2年9か月になります。震災当時は、毎日不安そうに過ごしていた子どもたちが今ではおとなと同じように自分の意見を出し合い、まちの復興に携わっている姿をとても誇りに思います。
この子どもまちづくりクラブの活動に限らず、子どもたちが先に立って活躍する場を、もっともっと増やして、おとなになった時に自慢できる『みんなで作ったまち』ができることを楽しみにしていたいと思います。



保護者
大友 安代 さん

石巻市

東日本大震災からの復興は道半ばです。しかし、時間の経過とともに社会の中で震災の記憶が薄らぎつつあるのも事実です。こうした中、子どもまちづくりクラブは、震災を忘れないためのモニュメントを作成し、また、復興の現場を自分たちで確かめ、復興への想い・意見を行政に提言してくれるなど、地域社会づくりに積極的に参画してくれました。子どもたちが活躍するこうした姿は、地域を勇気づけ、復興の大きな力になります。本当に頼もしく思います。これからもたくさんの活躍を期待しています。



石巻市
亀山 紘 市長

「あなたたち（子ども）は私たちの宝だよ」この言葉は、子どもまちづくりクラブのメンバーと仮設住宅で暮らす住民さんとの懇談会で聞かれた一言です。「石巻の未来のために、現状を知りたい」という子どもたちの声からこの機会は生まれました。少しはにかみながらもしっかりと自分の思いを伝える子どもたちの姿に、住民の方々は強い期待と希望を感じたと思います。私たちも石巻の未来のために、子どもたちの思いを応援していきたいです。



石巻市社会福祉協議会復興支援課
浜崎 晃行 さん

子どもまちづくりクラブの活動を通して子どもたちがたくましく成長していく姿を見るたびに石巻の未来が楽しみになります。「自分のまちをこうしたい」「こんな未来をつくりたい」子どもセンターにワクワクした気持ちをもちながら集う子どもたちの姿、将来のビジョンを常に思い描いて活動する姿に自分自身も背中を押されました。おとなになった子どもたちがまた次の担い手に未来のバトンを繋いでいく。その積み重ねがこの先の石巻の力タチを造っていくことを心から願っています。



石巻市教育委員会生涯学習課
竹内 栄喜 社会教育主事

子どもたち発信のより良いまちづくり、そして震災を風化させないためにとみんなで知恵を絞りアイデアを出し合い、年々進化していく活動内容に感心し、とても頼もしく思っております。活動を通して得た多くの学びや気づきはとても貴重な財産となり子どもたちが社会参加する際の原動力となっていると感じています。たくさんの方々の理解と協力そして応援のもと、これからも子どもまちづくりクラブを継続、継承していって欲しいと心から願っております。



保護者
千葉 治佳 さん

■■ 認定・受賞歴 ■■

●2013年7月　東北子どもまちづくりサミットが「第7回キッズデザイン賞」受賞

審査員の声　被災地の子どもたち自身がまちづくりに参加したい、という希望を持っている。復興やこれからのまちづくりについて子どもが考え、おとなと議論し、意見をまとめていくプロセスは極めて重要。地域の未来を担う子どもにとって自分たちの住むまちをつくっていく最初のステップであることを痛感する。(キッズデザイン賞HPより引用)

●2013年9月　「まつしい」が山田町の公認キャラクターに認定

●2014年2月　陸前高田市のミニ「あかりの木」が「JIAゴールデンキューブ賞 2013-2014 組織部門・特別賞」受賞

審査員の声　震災からの復興のまちづくりを子どもたちとともに取り組むことは、震災で受けた心の傷をいやすだけでなく、地域のおとなたちと子どもたちが結びつき、まちを考え、まちづくりの主体者として、子どももおとなも育っていく取り組みである。
(中略)ミニ「あかりの木」を作り、商店街の広場に設置することによって、住民が集まりたくなるような広場を創出する。
そこに参加する子どもたちの姿は、非常に魅力的である。(JIAゴールデンキューブ賞HPより引用)

●2014年7月　石巻市子どもセンター実現の取り組みが「第8回キッズデザイン賞」受賞

審査員の声　石巻の児童館の企画・デザインを子ども自らの手で考案した参加型プログラムで、子どもの社会参加を促す本格的な活動である。ここを拠点に、子どもが地域のことを考え、行動していく契機になるだろう。(キッズデザイン賞HPより引用)

●2014年10月　石巻市子どもセンター実現の取り組みが「2014年度グッドデザイン賞」、「第8回まちづくり賞奨励賞」受賞

審査員の声　(前略)地域の一員として復興を担う子どもたちの意見を尊重し、反映する場づくりがされている。寄贈され開所されたあとも子どもたちと共に運営がされているところも興味深い。子どもたちの未来の活躍に期待したい。(グッドデザイン賞HPより引用)

●2015年3月　石巻市子どもセンター実現の取り組みが「第10回こども環境学会賞活動賞」「第35回東北建築賞作品賞」受賞

審査員の声　(前略)35回の活動にのべ560名以上の子どもが参画し、子どもの声を反映させる仕組みを専門家や地域の人々が子どもたちに寄り添って実現した持続可能な活動のモデルを提示している。(こども環境学研究第11巻・第1号より引用)







■■ 資料編 ■■

これまでに SOFTで制作・発行した報告書や動画を紹介します。それぞれの URLと QRコードをのせているので、ぜひ色々な場面で活用し、東北の子どもたちの取り組みをご紹介ください。あなたも一緒に Speaking Out From Tohoku!

●SOFT中間報告書①　『HOPE』　<2011年5月~11月までの活動をまとめた報告書>
「子どもまちづくりクラブ」が考え、描いた"夢のまちプラン"や「Hear Our Voice」で集まった子どもたちの声などをまとめています。
http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/SOFT_HOPE_2011.pdf

HOPE

●SOFT中間報告書②　『Action』　<2011年12月~2012年11月までの活動をまとめた報告書>
"夢のまちプラン"を実現させるため、各地域の「子どもまちづくりクラブ」がおこした"Action"、
「Hear Our Voice」で発信した子どもたちの意見書・提言書などをまとめています。
http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/SOFT_Action_2012.pdf

Action

●SOFT中間報告書③　『Connect』　<2012年12月~2013年11月までの活動をまとめた報告書>
行政や地域、新しい仲間とのつながりづくり、より多くの方々との連携と、"Connect"を大切にしてきた
「子どもまちづくりクラブ」や「Hear Our Voice」などの子どもたちの活動をまとめています。
http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/SOFT_Connect_2013.pdf

Connect

●SOFT中間報告書④　『Future』　<2013年12月～2014年11月までの活動をまとめた報告書>
今を生きる子どもたちが取り組む"Future"、未来につながるまちづくり。"夢のまちプラン"のさらなる実現に向けた
「子どもまちづくりクラブ」や「Hear Our Voice」などの子どもたちの活動をまとめています。
http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/SOFT_Future_2014.pdf

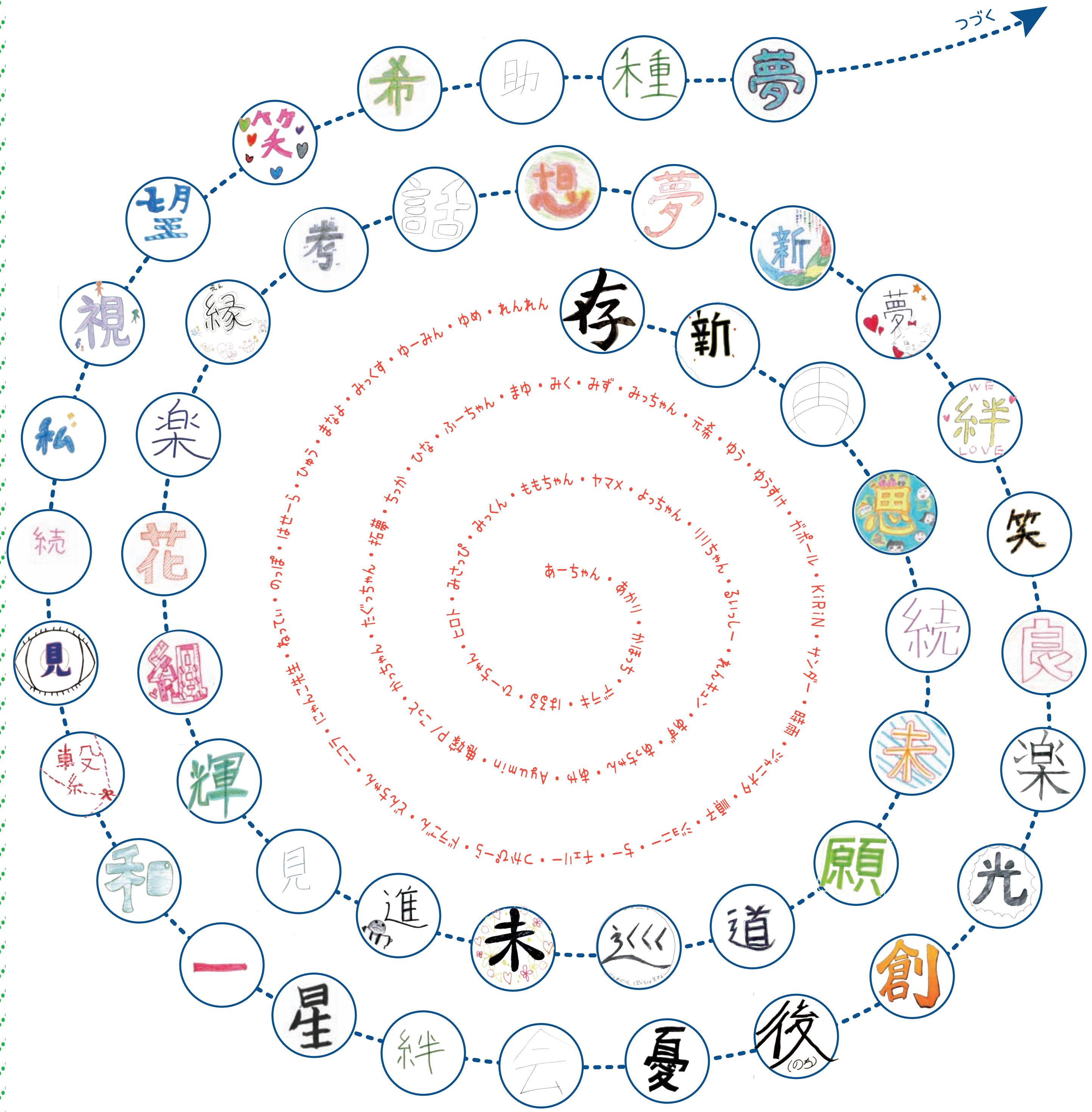
Future



●Speaking Out チャンネル
2010年11月20日「世界子どもの日」開設!
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが取り組む子ども参加促進事業
"Speaking Out"の活動や子どもたちの声を届けるYoutubeでのチャンネルです。
東北の子どもたちの活動の様子を見ることができます!
http://www.youtube.com/user/SpeakingOutCh

SpeakingOutCh

*営利目的や公序良俗等に反する利用はお断りいたします。



"自分にとってのまちづくり"を、子どもまちづくりクラブメンバーが漢字 1文字で表しました。

SOFT中間報告書⑤
企画・監修：山田町・陸前高田市・石巻市の子どもまちづくりクラブメンバー、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
イラスト・デザイン：たかはしなな
その他協力：山田町・陸前高田市・石巻市をはじめとする地域の方々
発行日：2015年 11月 20日　世界子どもの日

●問い合わせ先
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 本部事務局
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F
Tel：03-6859-0070　Fax：03-6859-0069
E-mail:soft@savechildren.or.jp
http:www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?c=30
http:www.youtube.com./user/SpeakingOutCh

*この報告書に掲載している所属・肩書き・年令などは
各事業実施日または 2015年 11月 20日現在のものです。